## 民謡歌手・津軽三味線奏者

# 坂本 明央さん（81歳）＝菱平＝

明央の名は「芸能人には縦真二つの字が良い」と親しい住職が付けてくれた。還暦を過ぎてからは音読みの「みょうおう」を名乗っている。坂本さんの本名は「昭雄」で青森県北津軽郡生まれ。父を早く亡くしたため7歳から母の出身地、南佐久で育った。耳の良い坂本さんは津軽の言葉も歌も楽器の音もずっと覚えていたが、津軽弁をからかわれるのが心配で「なるべく黙っていた」と話す。昭雄少年が口ずさんだ唱歌『花かげ』をふと耳にした教諭が、学校の行事で歌わせてくれた時に「褒められて歌うのは楽しい」と初めて思った。大人しくしていた少年は次第に本領を発揮するようになり中学卒業の頃には「魚河岸から求人が来ている。お前は声も大きいし丈夫だから、向いているだろう」と就職を勧められた。

魚河岸は景気が良く、朝4時からマグロをさばく激務だった。「かちどき橋が跳ね橋で、通れない15分が待てなくて自転車ごと渡し船に乗った」と思い出を話す。「魚河岸の店主たちがタニマチだったから、歌舞伎俳優もスポーツ選手も遊びに来たよ」。河岸で働いていた里見浩太朗はもうニューフェースで活躍していたが、スポーツ界入りや芸能界入りを夢見る若者が何人もいた。日本バンタム級チャンピオンになった山上哲也は、坂本さんの同僚で親友だ。

三橋美智也のような歌手になりたくて津軽の親戚に相談すると「お前のジサマも唄うまかったから大丈夫」と励まされた。坂本さんは、その血を信じて歌謡曲のオーディションを受け続けた。友人に連れていかれた津軽民謡のステージを観て「俺、三味線やらなきゃ」と耳で覚えた津軽民謡の独習も始めた。民謡の金沢大成門下になって才能が花開く。3年後から民謡全国大会で連続優勝してクラウンレコードからデビューを果たした。津軽三味線の師匠は藤田純一で、同様に3年後に三代目長谷川栄八郎の伴奏者代役に抜擢されてデビューできた。弾き語りのできる民謡歌手は重宝がられ、東京のキー局全部に出演した。「日テレが一番多かったかな」坂本さんは話す。全国ツアーの合間に、80人ほどもいた弟子に教えた。当時の弟子が挑えてくれた「明央」の名入れ半纏25枚は、今でも一門の演奏会で着用している。『日本郷土民謡協会』に提案され、坂本さんは『小諸馬子唄保存会』設立にも尽力した。

民謡の師匠の戒め「二足の草鞋を履くな。三味線は弾かずに歌に精進しろ」に背いたせいか、弟子を取りすぎたためか、ジャズセッションに加わったからか、第二の三橋美智也にはなれなかったけれど「長く歌えて楽しかった」と明央さんは言う。後悔しているのは60歳の頃「歌に味が出てきたので再録音したい」というレコード会社の申し出が実現しなかったこと。来年は「芸道60周年記念ディナーショー」と「鹿児島ツアー」が決まっている。本業とは別に「演歌も歌謡曲も歌いたい」明央さんのために、ホテルで生演奏をしていたプレーヤーを集めた7人編成のバンドができた。『津軽ベンベン』という。このバンドとの演奏会は「観客も一緒に歌ってもらいたい」と明央さんは考えている。母の大怪我が切っ掛けで引っ越してきた小諸からの活動も、いよいよ楽しくなってきた。

（取材・文　佐藤万千子）

---

エイジングと薬膳

## 肺① しみ&しわ問題

長く生きる中で必ず出てくるしみとしわ問題。しみの原因をひとことでいうと、瘀血（おけつ）、血がスムーズに流れなくなった状態のことです。くよくよ考え込むタイプ、からだが冷えやすい人は要注意です。瘀血を解消するためには、黒豆、黒胡麻、黒砂糖、ひじき、のりなどの黒い食物を積極的にとり、くるみやゆり根、豚肉などが肌を潤してくれます。特に肉好きで、肌の状態がイマイチと思っている人は、豚肉がおススメ。

年齢とともに出る自然なしわは、その人のこれまでの人生を感じさせて好感が持てるものですが、しわが急に増えた場合は内臓の病気にも注意します。皮膚の状態は肺とかかわっていることが多く、十分な睡眠や日頃から肌の乾燥を防ぐ。そのためには、肺を潤す食物、山芋やきくらげ、春菊、柿、梨、バナナ、みかん、りんご、アーモンドなどを積極的にとることが大事です。また、しわの予防には杜仲茶がおススメ。ぜひ早めの用心を。

（国際中医薬膳師　小清水由良）